

岡山県金融経済動向

1. 概況

- 県内景気は、原油・原材料価格高の影響などから、このところ足踏みの状態となっている。
- すなわち、最終需要面をみると、輸出が増加しているほか、設備投資も堅調に推移している。一方、個人消費は、弱めの動きとなっている。また、公共投資、住宅投資は低調に推移している。こうした中、原油・原材料高などを背景として、地場企業の企業収益が足もとでは減益幅を拡大する見込みにあり、景況感も一段と悪化している。
- 県内主要製造業の生産活動は、概ね横ばい圏内で推移している。
雇用・所得環境をみると、労働需給が徐々に緩和していく中で、雇用者所得は概ね横ばい圏内にある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

- 個人消費をみると、弱めの動きとなっている。
すなわち、8月の販売動向をみると、百貨店売上高は、催事などの効果もあって、衣料品や食料品を中心に3か月振りに前年を上回った。家電販売も、映像関連商品を中心に、堅調に推移している。
一方、スーパー売上高は、衣料品や生活用品が落ち込んだため、前年を下回った。乗用車販売も、軽自動車は前年を上回ったものの、小型車、普通車が前年を下回ったことから、全体でも前年を下回った。また、旅行取扱高は、遠方の旅行を中心に国内旅行が低調であったことから、全体では前年を下回った。
この間、主要観光地への入り込みは、一部先でイベント等が好評であったことから、前年を上回っている。

(2) 設備投資

- 県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、9月短観調査における20年度の設備投資計画（地場・出先企業計）をみると、製造業では、素材業種が鉄鋼を中心に、加工業種が輸送用機械、食料品を中心に増加することから、全体でも前年を2割弱上回る計画となっている（前年比+18.2%）。また、非製造業でも、電気・ガス、運輸、小売などを中心に増加計画となっている（同+4.0%）。この結果、全産業ベースでは、高水準である前年を1割強上回る計画となっている（同+14.0%）。

なお、前回調査（6月調査）と比較すると、非製造業は、運輸を中心に小幅の上方修正となったものの、製造業では、素材業種、加工業種ともに下方修正となったことから、全産業ベースでも下方修正となった。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積（非居住用）は、前年が改正建築基準法施行の影響により落ち込んだ反動もあって、前年を上回っている（前年比：4～6月▲16.7%→7～8月+24.9%）。

(3) 住宅投資

- 県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、持家やマンションを中心に需要が弱含んでいることもあって、基調としては低調に推移している。8月は、前年が改正建築基準法施行の影響により落ち込んだ反動もあって、前年を上回った（前年比：7月+46.5%→8月+41.5%）。

(4) 公共投資

- 公共投資は、低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、8月は、「独立行政法人等」、「県」、「その他の公共的団体」で前年を上回ったものの、「国」、「市町村」が前年を大幅に下回ったため、全体では前年を下回った（前年比：7月▲18.0%→8月▲11.1%）。

(5) 輸 出

- 輸出は、増加している。

すなわち、8月の県内輸出（通関実績）をみると、アジア、西欧、中東欧・ロシア向けを中心に前年を大幅に上回った（前年比：7月+21.8%→8月+35.0%）。

(6) 生産・出荷・在庫

- 7月の県内鉱工業生産指数（直近計数）の季調済前月比は、化学、食料品、一般機械を中心に上昇したことから、全体では2か月振りの上昇となった（季調済前月比：6月▲0.1%→7月+0.8%）。

この間、出荷指数は、輸送機械、石油・石炭製品、印刷を中心に低下したことから、全体では3か月振りの低下となった（季調済前月比：6月+0.9%→7月▲1.3%）。また、在庫指数は、輸送機械、電気機械、ゴム製品を中心に、3か月連続の上昇となった（前年比：同+2.8%→同+1.8%）。

- 県内主要製造業の最近の生産動向（10業種、付表参照）をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。自動車でも、輸出向けを中心に高操業を続けている。また、鉄鋼は、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けているほか、耐火物でも、大手メーカーを中心に高めの生産を続けている。この間、石油化学は、内外需要が落ち込んでいるため、このところ操業度を低下させている。電気機械では、携帯電話向け部品等の落ち込みを背景に、生産が弱含んでいる。石油精製は、内需が落ち込む中、一部先で定期修理を実施しているため、生産水準が低下している。このほか、繊維では、安価輸入品との競合や海外への生産シフトなどから、全体として低水準にある。また、農機具は、生産が持ち直しつつある。

(7) 雇用・所得

- 労働需給面をみると、8月の有効求人倍率は、高水準となっているものの、徐々に低下している（7月1.23倍→8月1.20倍）。一方、7月の所定外労働時間は、前年を上回った（前年比：6月▲13.9%→7月+6.1%）。雇用面をみると、7月の常用労働者数は、僅かながら前年を上回った（同：6月▲0.1%→7月+0.3%）。この間、8月の解雇者数はやや高めの水準にあるが、雇用保険受給者数は、前年を下回っている。このように、県内の雇用関連指標は、足もとでは弱めの動きがみられる。

賃金をみると、7月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回った（前年比：6月+1.5%→7月▲2.0%）。

この結果、雇用者所得は、概ね横ばい圏内にある。

(8) 物 価

- 8月の岡山市消費者物価指数（平成17年基準、生鮮食品を除くベース）は、生鮮食品を除く食料、光熱・水道、交通・通信などで前年比上昇率が高いため、全体でも高めの前年比上昇率となっている（前年比：7月+2.7%→8月+2.4%）。

(9) 企業倒産

- 8月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数（18件<前年同月10件>）、負債総額（25億円<同17億円>）ともに前年を上回った。

3. 金 融

(1) 実質預金等

- 8月の県内実質預金をみると、法人預金の前年比伸び率は拡大したものの、個人預金が前月並みのプラス幅となったほか、公金預金のマイナス幅が拡大したことから、実質預金全体の伸び率は低下した（月中平残前年比：7月+2.7%→8月+2.5%）。

なお、地元10行庫の預り資産をみると、投資信託の伸び率が鈍化しているものの、保険商品は引き続き高い伸び率となっている。

(2) 貸 出

- 8月の県内貸出をみると、企業向けが僅かながらも前年比プラスに転化したほか、地公体向けも前年比伸び率が上昇したものの、個人向けのプラス幅が縮小したことから、貸出全体の伸び率は低下した（月中平残前年比：7月+0.5%→8月+0.3%）。

(3) 貸出約定平均金利

- 8月の新規貸出約定平均金利（総合ベース<速報値>）は、前月比低下した。一方、ストック金利（同<速報値>）は、前月比上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111（代表）

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主 要 製 造 業 の 生 産 動 向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	輸出向け完成車を中心に、全体として高操業が続いている。 国内向け生産は、小型車で新車投入効果が剥落しつつあるものの、軽自動車では低燃費車種の需要の強まりや新車投入もあって、持ち直しつつある。一方、輸出向け生産は、KDが減少しているものの、完成車はロシア、中東、欧州向けを中心に引き続き堅調に推移している。 この間、生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。
造 船	豊富な受注残を背景に高操業が続いている。 造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業用機械の受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。 この間、生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。
石油精製	需要が落ち込んでいるほか、一部先で定期修理を行なっているため、原油処理量は低下している。 製品別の需要動向をみると、ナフサは堅調に推移している。ガソリンは、原油価格高騰による製品価格上昇の影響から落ち込んでいる。軽油は、国内需要が底堅く、輸出向けも好調。灯油留分は、灯油が不需求期入りしている中、燃料転換の進捗もあって弱含んでいるものの、ジェット燃料は輸出向けの増加もあって堅調に推移している。一方、重油は、基調として減少傾向にある。
石油化学	全体としてなお高めの生産を続けているが、水準は低下してきている。 製品別にみると、ポリエチレンでは、需要に弱さがみられるため、やや低めの生産水準となっている。プロピレンでは、自動車向けを中心に需要が好調なことから、高めの生産となっている。一方、スチレンモノマー、ポリスチレンは、国内、海外ともに需要が落ち込み、採算も悪化しているため、生産水準を引き下げている。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準を続けている。 製品別の動向をみると、薄板類は、自動車・家電向けの高付加価値品を中心に需要が好調であり、全体としては高水準の生産となっている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、輸出向け汎用品や高付加価値品を中心に、高めの生産となっている。棒鋼類は、建設向けで需要が落ち込んでいるものの、自動車向けが好調に推移しているため、全体としては高めの生産水準となっている。
耐 火 物	大手メーカーを中心に高めの生産が続いている。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。
電気機械	携帯電話向け部品等の落ち込みを背景に、弱含んでいる。 製品別にみると、電子部品は、液晶関連が高めの生産を続けているものの、携帯電話向けやデジタルカメラ向けで生産水準を引き下げているほか、スイッチでも、携帯電話向けで生産水準を引き下げている。この間、デジタルビデオカメラは、新製品投入によって生産が増加している。
織 維	全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、綿織物、合繊織物、ジーンズは、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、作業服は、海外拠点への生産シフトを背景に、月々の振れを伴いながら、低調な生産が続いている。一方、学生服は、少子化の影響によって市場は長期的には縮小傾向にあるものの、足もとの需要は安定しており、生産水準は横ばいとなっている。
工作機械	高操業が続いている。 NC旋盤、MC（マシニングセンター）ともに、自動車関連、一般機械メーカー向けで豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。もっとも、国内外で先行きの景気情勢に不透明感が強まる中、新規受注については弱めの動きもみられている。 この間、繁忙度の高い生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。
農 機 具	生産が持ち直しつつある。 製品別にみると、コンバインでは、需要期に入ったこともあって生産が持ち直しつつある。また、携帯用刈払機は、国内向けでは需要期が終わり生産は落ち着いているものの、一部の先で豪州を中心とした海外向けが増加しているため、全体の生産水準は高めとなっている。